

IV 1995年度の教材開発

1. チームAの教材開発

リサイクルは、今どこまで

2. チームBの教材開発

やってみよう / アメリカと日本の子どもたちの遊び

3. チームCの教材開発

みずきとウォルターの水の旅

4. チームDの教材開発

健全な生活環境をめざして

～アメリカの喫煙率低下にみる青少年問題解決の方向性～

5. チームEの教材開発

平和について考えよう /

6. チームFの教材開発

住みやすいまちづくりを求めて

～日米の都市環境の比較を通して～

リサイクルは、今どこまで

広島市立千田小学校	武智正紀
東広島市立西条中学校	中森英雄
広島市立城山中学校	原みよ子

わたしたちは、この教材を主として小学4年生の社会科「ごみとすみよいくらし」の発展的教材として作成した。

この学年では、人々の健康を守るため、ごみの収集や処理などの活動が人々の生活の変化に対応して進められていることに気づき、そこには人々の願いを生かした工夫や努力が見られることを学習してきている。具体的には、家庭の実態や近所の様子、清掃工場の見学やその仕事に携わる人々からの聞き取りなどの活動を通して、自分たちの生活になくてはならないごみ収集や処理の問題を自分のこととして実感してきている。そして、ごみを減量化するための方策についても考え、リサイクルの重要性についても認識している。環境保全の立場、地球資源を大切にする立場からごみ処理を考えていけば、リサイクルは必要なことであり、各自治体でも熱心に進めている。このリサイクルの問題を、児童が行動する住民の一人として取り組んでいくきっかけになればと考え作成した。

従って、ごみ収集処理の学習が終わった段階で、今後どうすればよいのか自分なりの考えをまとめるための資料として活用できるように編集した。

もちろん、国際理解教育の教材として、小学校高学年や、中学校において台所から見た米国の市民生活の一端の理解のためにも役立つものと考えている。

そのため教材は、『みよちゃん』という少女が家族旅行をした米国での見聞風の物語として構成した。多少難しい言葉も出てくるが、ごみ処理について学習した後では理解（想像）できる範囲にとどまっているものと考えている。

この教材を通して、ごみのリサイクルを進めることが、環境保全の役に立つことを認識してほしいし、住民の生活をより快適にしていくには、住民自身が行動を起こし（具体的にはボランティア活動など）自治体と協力していく必要性を感じ取ってくれればと願っている。

わたしたちが調査した範囲は、米国のごく一部の地域にしかすぎない。日本の中でもごみ処理の方法は自治体によって異なっているように、当然、全米の範囲まで広げればさまざまな方法や抱えている問題も異なっていよう。従って、この教材だけですべてを押し量るのではなく、あくまで一つの物語として取り扱ってほしい。

リサイクルは、今どこまで

みよちゃんは、小学校6年生。とても好奇心おうせいで、学校では社会科が大好きな女の子です。夏休みを利用してアメリカへ家族旅行に出かけました。ノースカロライナ州のグリーンビル市で暮しているお父さんの妹（おばさん）の家で、みよちゃんたちは何日間か泊らせてもらうことになりました。

楽しい夕食が終わった後、みよちゃんはあとかたづけを手伝いました。ふと見ると、おばさんは食べ残した野菜などを流しの穴に直接捨てているではありませんか。

みよちゃん 「おばさん、そんなことしたら流しの穴がつまってしまうんじゃないの。」

おばさん 「大丈夫、ディスポーザーを使っているから、つまらないのよ。」

みよちゃん 「ディスポーザーてなに、おばさん。」

おばさん 「ああそうか、日本にはあまりないから、みよちゃんは見るのがはじめてかもしれないね。じゃ、見せてあげよう。」



ディスポーザーの流し口



流し台の下の機械

Q1、ディスポーザー、何だと思いますか。
写真を見て考えてみましょう。

みよちゃん 「便利そうだけど、水が汚れてしまうんじゃないかな・・・
他のごみはどうしているの。」

おばさん 「その日その日のごみは、ここに
こうやってためているの。」



みちゃん 「いっぱいになっているから、これをビニール袋に入れて収集場所に持って行くの。」

おばさん 「そうじゃないの、大きなポリボックスに入れてためておいて、1週間に1回出すのよ。」

※みよちゃんは、おばさんに案内されてポリボックスの置いてある裏庭に行きました

みちゃん 「おばさん、2つのポリボックスがあるね。ごみを分けて出しているの。」

おばさん 「そうよ、日本で言えば生ごみと缶・ビンに分けて出しているでしょう。それと同じことかな。」

みちゃん 「生ごみは、日本みたいにあまり臭くないね。」

Q2. どうして、あまり臭くないんでしょうか。それと、どんなごみが入れられていると思いますか。

みちゃん 「おばさん、もう1つのポリボックスについているこのマークは何なの。」

おばさん 「ああこれ、これはリサイクルのマークなの。グリーンビル市がポリボックスにはってくださいと配ってくれたものなのよ。」

みちゃん 「リサイクルで、どういう意味なの、おばさん。」



おばさんのメモ

◎リサイクルとは～一度商品として使われたものを、ごみとして捨てるのではなく、再び資源として使ったり利用したりすること。

◎日本でリサイクルにまわされるごみ～缶、ビン、ダンボール・新聞・雑誌など紙類

◎リサイクルには
こんなよいこと
があります。

①リサイクルは、ごみを減らします。
②リサイクルは、環境を守ります。
③リサイクルは 限りある資源やエネルギーのむだづかいを防ぎます。

Q3, グリーンビル市はこのリサイクルマークのステッカーを各家庭に配っています。あなただったら、このステッカーを何に利用しますか。

みよちゃん 「これらのごみは、決まった曜日出すんでしょう。大きなビニール袋か段ボールの箱に入れて各地域の収集場所に出すんでしょう。」

おばさん 「そうじゃないのよ、みよちゃん。このポリボックスにころがついているでしょう。このポリボックスごと家の前に出せば、収集車に取りに来てくれるの明日は、リサイクルごみを出す日だから、市の収集車が来てくれるので観察してみましょう。」

CONTAINER OPTIONS

We understand that many of you have bought your green recycling bin. From time to time we replace them due to lost or stolen bins. Here are some other options:

SMALL REUSABLE CONTAINERS:
Containers 60-75 gallons in size are made of plastic and are used to hold cans, glass, plastic or cardboard. They are dark brown without any paper bags. Containers must be kept full to the top in size half the size of the green recycling bin.

CORRUGATED BOXES:
Brown paper boxes 10 gallons in size may be used to hold cans, glass, plastic or cardboard. They are dark brown. When the box is full, it is used to hold cans, glass, plastic or cardboard. Do not use it for anything else.

LARGE REUSABLE CONTAINERS:
Containers larger than 75 gallons can be used, but they must be kept full to the top in size half the size of the green recycling bin.

RECYCLING STICKERS:
Call Minneapolis Solid Waste and Recycling at 612-347-7117 for all recycling stickers for labeling your reusable containers.

RECYCLING CREDIT

The City of Minneapolis offers a recycling credit to residents who recycle. The credit is based on the amount of recycling material you recycle. The credit is applied to your property tax bill.

If you are recycling, but still have a recycling credit, you can use it to pay for your property tax bill. The credit is applied to your property tax bill.

If you have a recycling credit, you can use it to pay for your property tax bill. The credit is applied to your property tax bill.

1993 RECYCLING CALENDAR

Monday

Recycling Schedule

January	3 rd , 16 th , 30 th
February	13 th , 27 th
March	13 th , 27 th
April	13 th , 27 th
May	6 th , 22 nd
June	5 th , 19 th
July	12 th , 26 th
August	16 th , 30 th
September	13 th , 27 th
October	13 th , 27 th
November	6 th , 20 th
December	4 th , 18 th
January '94	3 rd , 17 th , 31 st
February '94	13 th , 27 th

Questions?
Call Minneapolis Solid Waste and Recycling at 612-347-7117.

収集予定日のパンフレット

※次の日、みよちゃんとおばさんが待っているとグリーンビル市のごみ収集車がやって来ました。



Q4, 少し、日本のやり方と違うみたいですね。どういうところが違うか書いてみましょう。

隣の家は、ごみボックスを家の前に出していない。収集車のおじさんは家の裏まで二輪車でごみを取りに行きました。しばらくして、収集車まで帰ってきたおじさ

んに、みよちゃんはおもいきって質問しました。

みよちゃん 「おじさん、どうして家の裏までごみを取りに行っておげるの。協力してくれていないのだから、ほっとけばいいんじゃないの？」

おじさん 「そうじゃないんだよ、みよちゃん。みよちゃんだって、自分の家がどんなごみを出しているかを人に見られたら、いやだろう。だから、そういう人は、家の前にごみを出さなくてもいいんだよ。それと、市民にリサイクルの意識を高めてもらうために、家の裏にごみを取りに行っているのはサービスでしているんだよ。」

みよちゃん 「ふうーん、でもそんなことをしていたらとても時間がかかるでしょう。1日何軒ぐらい集めて回るの？」

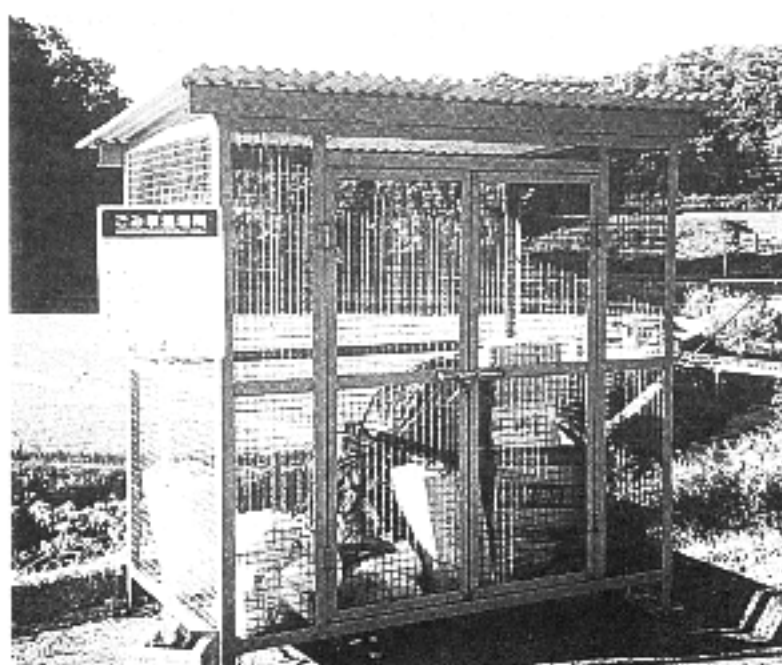
おじさん 「そうだな、300軒ぐらいかな。」

みよちゃん 「だったら、収集車で行かれない場所もあるんじゃない。そんな地域の人には、ごみをどうしているの、焼いたり埋め立てたりしているの。」

おじさん 「そんなことはしていないよ。収集車が行かれない地域は、ごみ収集所（リサイクリングセンター）があってね。地域の人が、車でごみを出しにくるんだよ。収集車が来る地域でごみを出し忘れた人でも、リサイクリングセンターに持っていくことができるんだよ。」

おじさん 「みよちゃん、おばさんの車の中に出し忘れた新聞紙があるから、リサイクリングセンターに出しに行きましょう。さあ、車に乗って。」

※みよちゃんは、おばさんとリサイクリングセンターに行きました。



日本のごみ収集所



アメリカ(グリーンビル)のリサイクリングセンター

Q5、ごみの出し方が日本のごみ収集所とアメリカのリサイクリングセンターでは、違うみたいですね。上の写真を見て、どんなところが違うか、書いてみましょう。

おばさんのメモ

リサイクリングセンターについて

日本のごみ収集所では、例えば1ヶ所に曜日ごとに違う種類のごみを住民が入れていきますが、このリサイクリングセンターでは、ごみを種類ごとに入れるコンテナが設置してあり、人々は車でいつでも持ってきて入れることができ、とても機能的にできています。また、管理人も1人います。

下の写真にあるように、大型ごみを入れるコンテナ・廃油を入れるタンク・使わなくなったメガネを入れるボックス（欲しい人は、持って帰ってもよい）も、設置してあります。

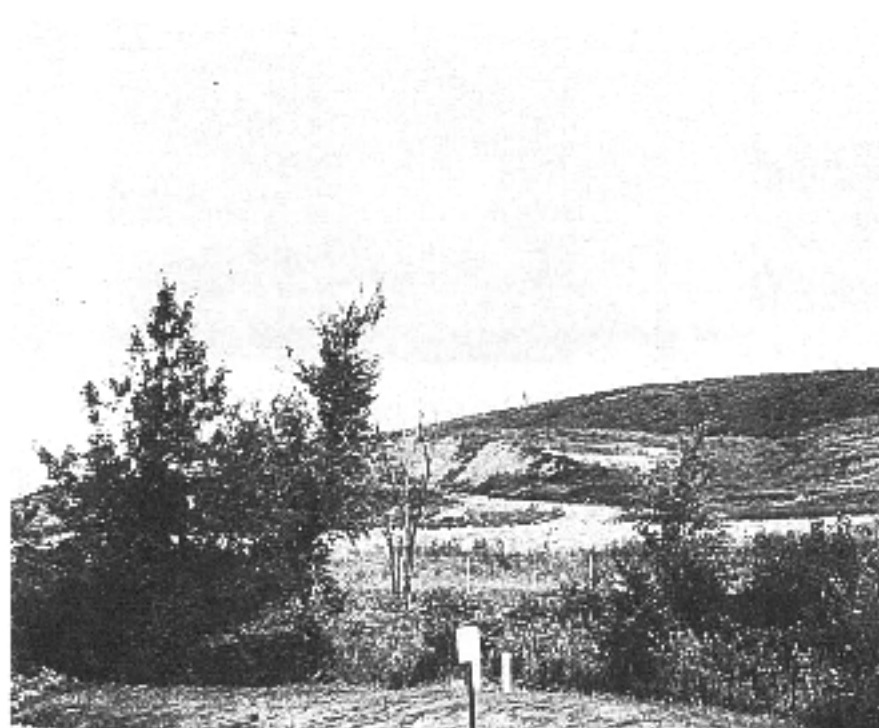


みよちゃん 「おばさん、家庭からのごみの出し方はわかったけど、回収されたごみはどのように処理されているの。生ごみは焼いているのかな。」

おばさん 「さあ、どうかな。明日おばさんは休みだし、知り合いに市役所の人がいるから、頼んで集められたごみがどのように処理されているか、いっしょに見に行きましょう。」

※次の日、みよちゃんとおばさんは、ごみ処理場に見学に行きました。

生ごみの処理について



ごみ埋め立て地

みよちゃん 「おばさん、生ごみは埋め立てされているね。日本だったら、谷底などに埋め

立てていくけど、ここは平地にごみを積み上げていくんだね。」

おばさん 「みよちゃんも何日間か過ごしたからわかると思うけど、アメリカのこの地域は山がないでしょう。だから、平地に積み上げて行くんじゃないかな。」

みよちゃん 「水気もあまりないから、焼いてもよいと思うけど、どうしてグリーンビル市では焼いていないのかな。」

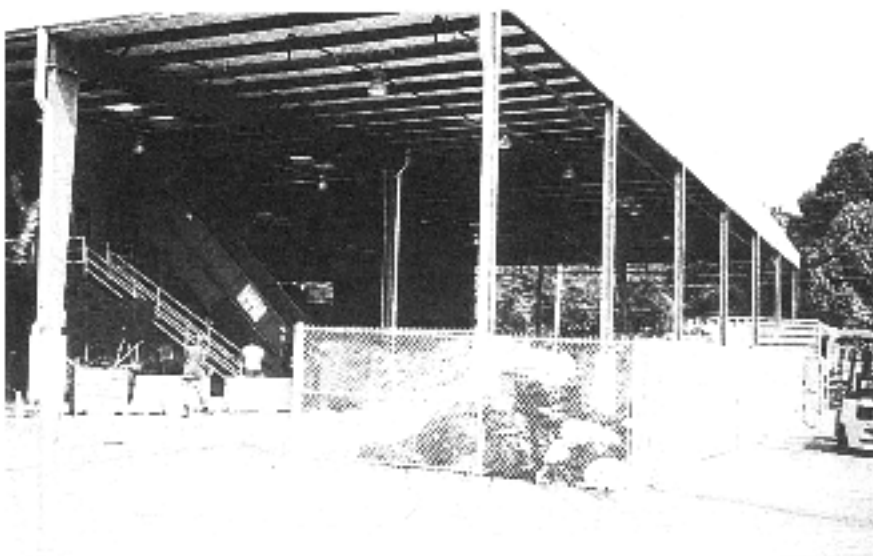
Q6、みよちゃんの疑問を考えてみよう。

おばさん 「これは聞いた話だけど、この埋め立て地はあとから何にも利用されなくて、そのまま放置されるんだって、日本だったらもったいない話だけど・・・それと、グリーンビル市も埋め立て地の不足に悩んでいて、それでごみを減らすためにリサイクルに4～5年前から本格的に取り組み始めたそうよ。」

みよちゃん 「えっ、本当。それじゃあ日本と同じじゃない。アメリカは日本に比べたらとても広いから埋め立て地になる所などいくらでもありそうだけど、困っているんだね。」

リサイクルの処理について

おばさん 「ここは、E C V Cといってね、4年ぐらい前に市がお金を援助して作られたごみ処理場だそうよ。缶やビン、雑誌、新聞紙、段ボールなどリサイクルできるものが集められて、きちんと分別されまとめられる所なの。ここで働いている人は、32人で、そのうち体の不自由な人が27人働いているそうよ。その人たちが自立するために働き、積極的に社会に参加するということは大事なことね。」



みよちゃん 「ベルトコンベヤーにのってきたものを、手作業で分けているね。手早くさっさと分けているんだね。このようにしてまとめられた缶・ビン・紙などは、どうなるの。」

おばさん 「それぞれ、それらを再生してくれる会社に売るそうよ。アルミ缶などは、も

う一回アルミ缶になるし、ここにまとめられているコンピューター用の白い紙があるでしょうこれは、日本に売られてトイレットペーパーなんかになるんだって。」

あやちゃん 「限りある資源だから、使ってポイと埋め立てされたらかわいそうだし、大事に無駄なく使わないとね。でも、リサイクルはとてもよいことだけど、問題はなないの。」

おばさん 「うん、よい質問ね。例えば、このE C V Cでは、石油からできた製品のごみの中で、ペットボトルだけは回収してるけど、発泡スチロールやトレーなどは回収していないの。」

あやちゃん 「えっ、それじゃ、それらはどうなるの。あっ、わかった、さっきの埋め立て地にあったわ。」

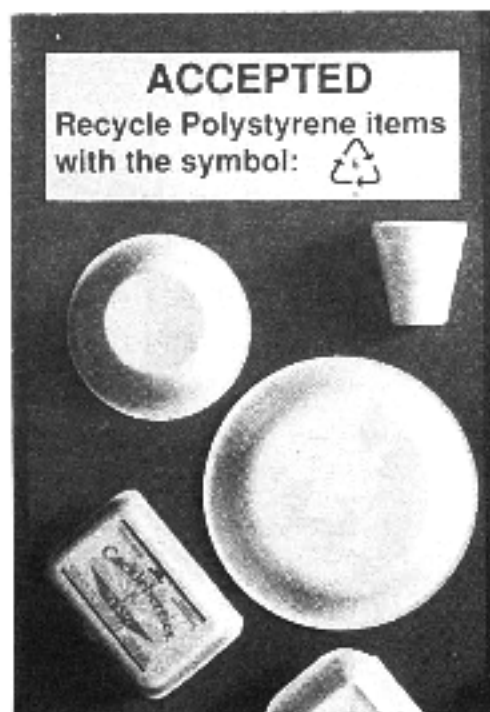


紙のごみ



ペットボトル

おばさんのメモ



石油からできた製品（トレー）などには、入っている原料ごとに番号がつけてあります。回収する時は、その番号ごとに集めることができます。皆さんのまわりでもどんな番号がついているか、調べてみましょう。

ところで、石油からできた製品のごみで、リサイクルにまわされるものとそうでないものがあります。リサイクルにまわされない理由としては、技術的にむずかしかったり、技術的に可能でもそのための費用が高くついてしまうなどがあげられます。

ちなみに、アメリカではペットボトルはリサイクルにまわされ、カーペットなどになるそうです。

※ボランティア活動でごみのリサイクルに取り組む人々

あやちゃん 「市がこんなに努力して取り組んでいるんだから、もっと市民もごみのリサイクルに対して意識が高まればよいね。」

おばさん 「そうね。でも、昨日のごみ収集車のおじさんが言っていたけど、グリーンビルの市民はわりときちんとごみを出してくれているから助かるそうよ。他に市民の中でボランティア活動でごみのリサイクルに取り組んでいる人がいるから、みよちゃんに教えてあげようね。」

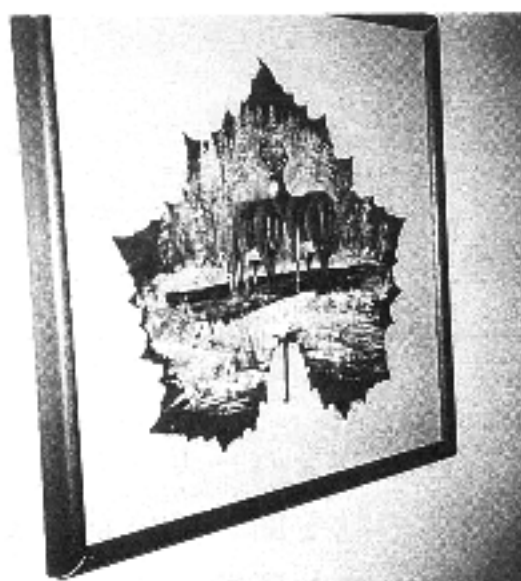
ポンダーさんのお話

リサイクル運動を広げるため、アメリカ政府は、児童・生徒向けにリサイクルのパンフレットを作り、たのまれれば、各地に無料でビデオを送ったりしています。また先生用の指導の資料も作成しています。

グリーンビル市では、私たちのボランティアグループが学校や会社からたのまれれば出かけて、リサイクルの大事さについて話をしています。

学校では、社会科の時間だけでなく、理科の時間でもリサイクルの学習を進めていて、私たちは先生にアドバイスしたり、児童・生徒のみなさんに直接話をさせてもらっています。

ごみとして出されたものの中には、そのまま使えるものがあります。私たちは、そのごみをそのまま再利用して、さまざまな飾りなどを作っています。また、再利用フェアを定期的に行っていて児童・生徒・地域の人々の再利用で作ったさまざまな作品を展示し、市民のリサイクルに対する意識を高めてもらおうと思っています。



ごみの再利用で作られた作品

おばさんの一コマ

アドプト・ア・ウェイについて

グリーンビル市のあるピット郡においては、道路によくこのような看板が立っています。これはリサイクルではありませんが、地域の環境を守っていくという立場から

個人及び会社が道路の清掃活動をボランティアでおこないますと宣言した看板です。

宣言した人は、看板の立っている道路の2マイル（約3.2km）の道の両端を年4回清掃するそうです。

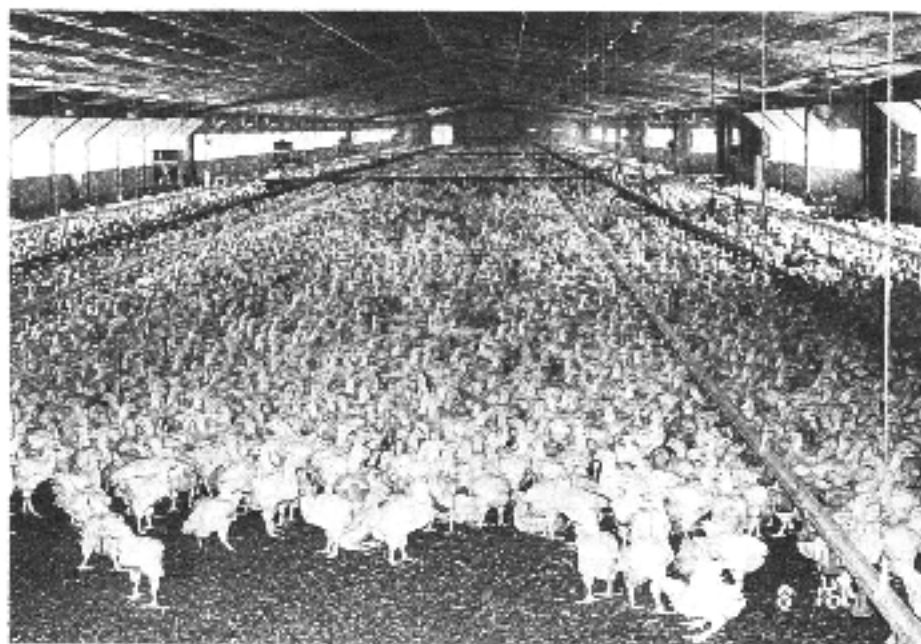
農場におけるリサイクルについて

これは、ボランティアではありませんが、農場を経営している人で、積極的にリサイクルに取り組んでいる人がいます。名前は、J・ストーリーさんといいます。彼は、にわとりを20万羽飼っており、そこから出てくる大量の糞と同じく農場で生産したピーナツの殻や木片を混ぜ合わせて堆肥を作っています。

この堆肥で1000エーカー（約4 km²）以上の農地の肥料をすべてまかなっていて、化学肥料は一切使わないそうです。有機農業は、手がかかるといわれますが、コンピューター管理と機械化により家族だけで農場が管理できているそうです。



宣言した看板



ファーストフードの店に入って、コーラを飲みハンバーガーを食べながら、おばさんのリサイクルのボランティア活動についての話を聞いていたみよちゃん。店のコップや紙がごみ箱に捨てられているのを見て、また疑問がうかんだようです。

みよちゃん 「ところで、家から出るごみがどのように処理されているかわかったけど、このような店や会社から出たごみは、同じように市の収集車に取りにきたりするの。」

おばさん 「それは、日本と同じように民間の会社に取りに来たりするのよ。その会社は有料でごみを集めているの。みよちゃんは、明日からミネアポリスに行くんでしょう。そこに、『モール オブ アメリカ』というとても大きなショッ

ピング街があるから、お父さんと一緒に行き店の人に頼んで、そこではどのようにごみが集められ、処理されているか見せてもらいなさい。」

ということで、みよちゃんはミネソタ州の『モール オブ アメリカ』にお父さんと一緒に行きました。

その全米一の大きさにびっくり。だって、ショッピング街の中に遊園地があるのです。ここから出るごみの処理も大変そう。だからここで缶のジュースなどは売っていないそうです。

ショッピング街にはそれぞれの種類ごとにゴミ箱が置かれていて、ごみを分けて出してほしいとのお願いのポスターも多く張られています。買い物に来た人たちはきちんとそれぞれのごみ箱にごみを捨てていて、よく協力をしています。

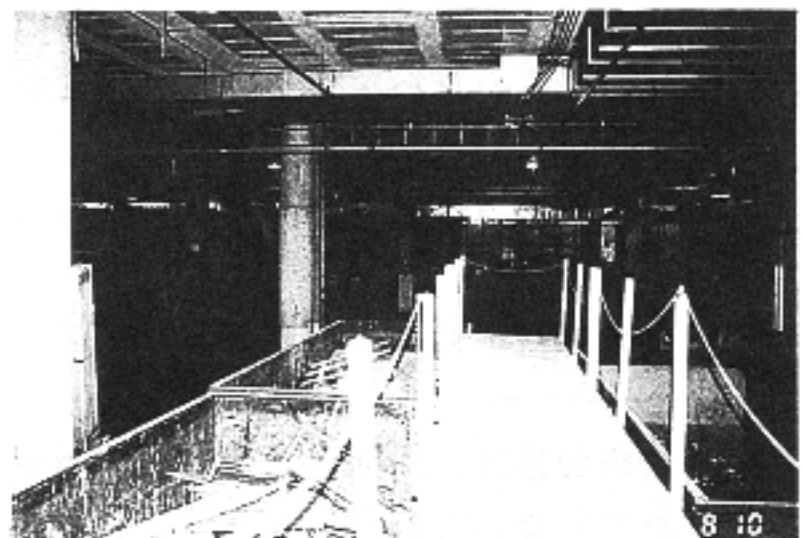
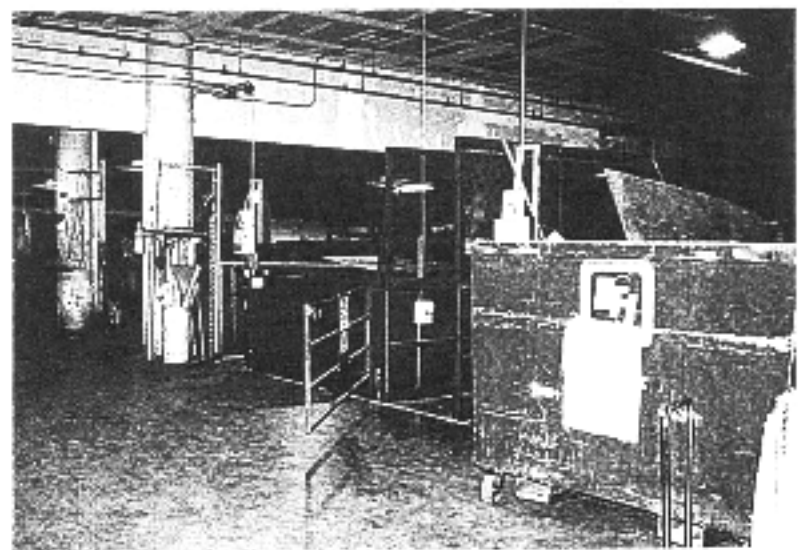
店の人に頼んで、ショッピング街の地下室に案内してもらったみよちゃんそこで、またびっくり。地下室全部が巨大なごみの集積場なのです。『モール オブ アメリカ』から出たごみは全部ここに運び込まれ、種類ごとに分けられて鉄道のコンテナのような箱に入れられています。

みよちゃん 「お父さん、とても大きなごみの集積場だね。ここで働いている人たちはショッピング街の従業員なの。」

おとうさん 「いや、ちがうよ。ここで働いている人たちは、すべて『BFI』という民間のごみ処理会社の人たちなんだよ。この会社は全国規模の会社で、店や会社から出るごみの処理を担当しているんだよ。」

みよちゃん 「ここから出たごみは、どこへ運ばれて行くの。」

おとうさん 「『BFI』のリサイクルセンタ



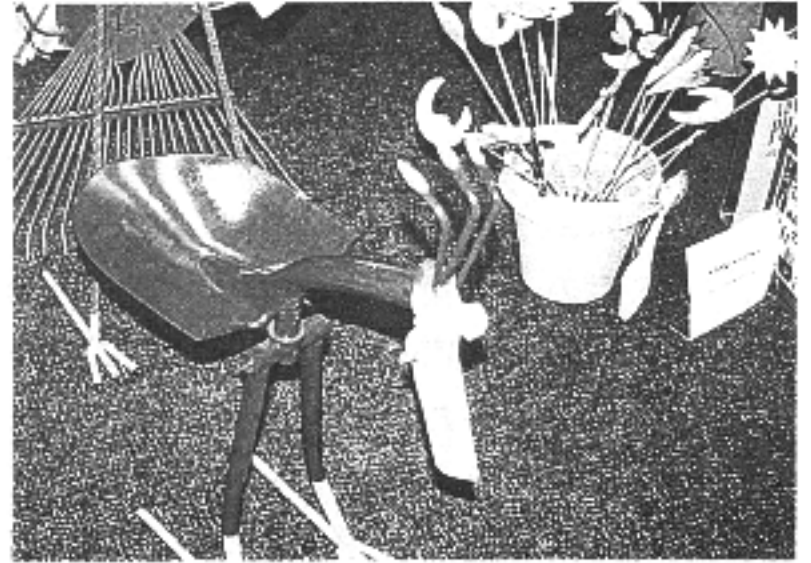
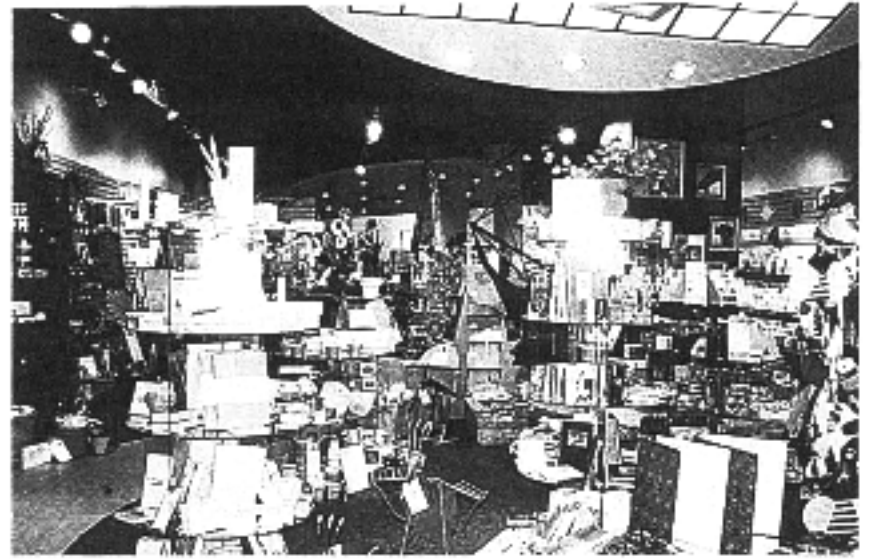
地下のごみ集積場

ーなどに持って行き、みよもおばさんと一諸に見たろう、グリーンビルで。リサイクルに回されるんだよ。」

みよちゃん 「じゃ、リサイクルできないものはどうするの。グリーンビルと同じように、埋め立てられるわけ。」

おとうさん 「うん、多分そうだろうね・・・ところで、みよ、今さっき、店の人に聞いたんだけど、『BFI』は、リサイクルで作ったものを、このショッピング街の中に店を開いて

売っているんだよ。『リサイクルショップ ナウ』という名前の店らしいよ行ってみよう。」



Q7、このリサイクルショップとそこで売られている商品の写真を見て、あなたはどのように思いますか。あなたの感想を書いてみましょう。

※生ごみの処理について

みよちゃん 「お父さん、グリーンビルでは生ごみ（リサイクルできないごみ）は、埋め立てられていたけど、焼かないの。それとも、これも何かに利用しているの」

おとうさん 「焼いたら、いろいろ悪い煙が出てくるから、アメリカで焼いているのはあまり聞いたことがないね。でも、これをうまく利用して火力発電所の燃料にしている工場があるから、行ってみよう。」

ごみを燃料に変える会社『リソース リカバリー』

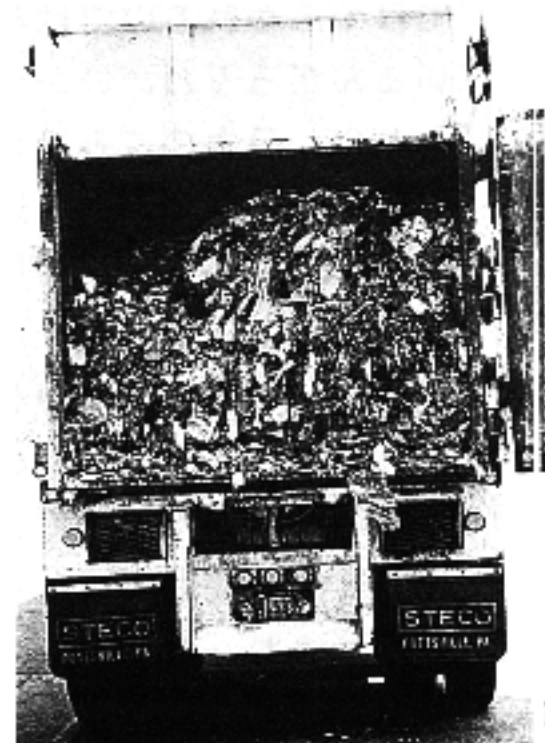
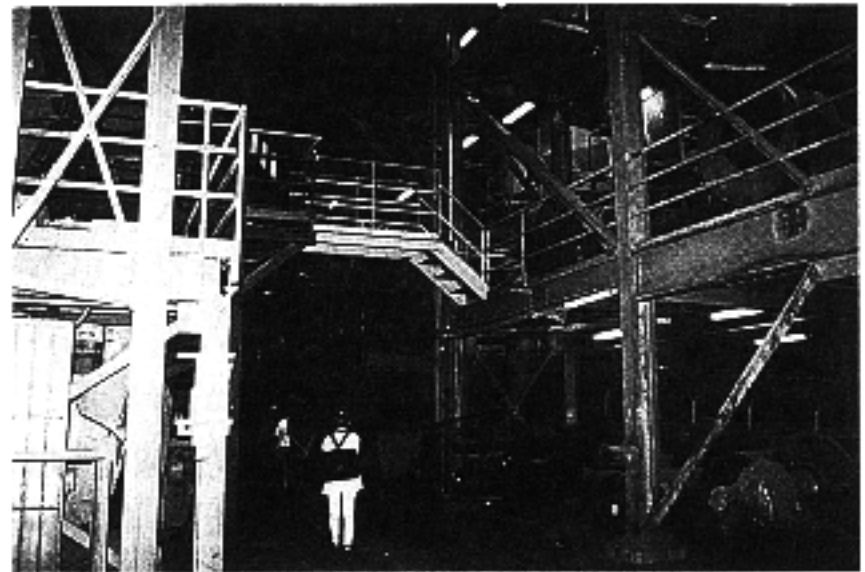
この会社は、民間の会社と市役所がいっしょになってつくった会社です。分別されていないごみを、オートメーションで燃えるごみだけ取り出し、発電所の燃料

に変えています。

燃料としては、石炭よりはカロリーは低いですが、発電するための熱源として十分利用価値はあるそうです。燃やして出る煙もあまり害がなく、心配された匂いも日本のような湿った生ごみとちがい、乾燥しているのであまりないそうです。日本もディスポーザーが普及すれば、このような工場ができるかもしれませんね。

この会社は、ただ単に生ごみを燃料にしてお金もうけをしてやろうという目的のために作られたものではありません。この会社が作られるきっかけとなったのは、この地域の埋め立て地が不足してきたという、とても切実な問題があったからです。

したがって、この会社の最終的な目標は「埋め立て地に、ごみを送らないようにする」ということだそうです。



燃料になった生ごみ

※日本へ帰る飛行機の中（お父さんとみよちゃんの会話）

おとうさん 「みよは、アメリカでは観光地には行かずに、ごみ処理にかかわるところばかり、行っていたね。」

みよちゃん 「うん、でも観光ならまた来れるし、日本でもあまり行けないところにみよはアメリカで行けたんだもん。よい経験をしたと思うわ。」

おとうさん 「それで、みよがアメリカのごみ処理を調べてわかったことは何だい。」

みよちゃん 「そうね、まず一番は、アメリカもごみ処理でリサイクルに取り組み始めたのは、埋め立て地が不足したからということなの。狭い日本だったらわかるけど、とても広い土地を持っているアメリカでも悩んでいるのは一緒なんだってということがわかったわ。この前、ボランティアでリサイクルに取り組んでいる人のところでビデオを見たんだけど、その中で自分の家の近くに埋め立て地が作られるとしたら、賛成ですか反対ですかと聞いているの。」

おとうさん 「それで、みんなどう答えていたんだい。」

みよちゃん 「みんな、ノーと答えているの。」

おとうさん 「必要なのはみんなわかっているのに、いざ自分の家の近くに作られるとなっ

たらいやなんだね。これも日本と同じだね。」

みよちゃん 「それと、次にわかったのは、日本だったらごみ処理は市や町がやってくれるもんだという意識があって、まかせっきりにしているところがあるでしょうけれども、アメリカの人たちは積極的にリサイクルにかかわろうとしている人が多いんじゃないかなということ。会社にしたって、ボランティアの人にしたって。そこには、限りある資源を大切にしようとか、地域や地球の環境を守ろうという意識があるんだと思うな。」

おとうさん 「アメリカは、日本みたいに地域の人や学校がみんなまとまって道を掃除をしたり空き缶などを集めたりはあまりしていないね。でも、ボランティアということではやっている。これは、どっちがいいとは言えないけど、アメリカではやらされるのではなく、個人個人が自主的に行うという考えが定着しているんだろうね。いかにもアメリカ流というものかな。」

みよちゃん 「それに、日本のごみ処理施設はみよも4年生の時に見に行ったけど、アメリカと同じようにかなり進んでいると思うの。でも大事ななのは、よい施設、機械を持っていたって、地域の人々の協力がなければ宝の持ちぐされで効果が上がらないと思うわ。一人一人にリサイクルの意識が高まっていき、例えば、家庭からごみを出す時などきちんと分別して出せるようになればよいね。」

おとうさん 「そうだね、その通りだね。混ぜればごみ、分ければ資源なんだから。日本は今度リサイクル法ができて1997年から実施されるけど、法律ができればすむという問題ではなくて、人も会社も協力して取り組まなければ解決にならないよね。」

みよちゃん 「最後に、これはみよも不思議なんだけど。日本だったら、ごみの問題を考える時、ごみを減らすにはどうしたらよいかということも考えるでしょう。でもアメリカの人はそんなことあまり考えていないような気がするんだけど、みよの考えすぎかな。」

おとうさん 「さあ、どうかな。アメリカの店は、日本と違って商品の過剰包装はあまりしないけどね・・・・・・・・・・」

補助資料（教材の中の Q & A）

Q1 ディスポーザー，何だと思えますか。写真を見て考えてみましょう。

この機械は，流し台の下に設置しており，台所から出る野菜などのくずを細かく砕いて下水に流す電気装置です。アメリカの家庭のほとんどは，このディスポーザーを設置しています。

Q2 どうして，あまり臭くないんでしょうか。それと，どんなごみが入れていると思えますか。

アメリカの家庭は，ディスポーザーを設置している家庭が多く，日本のような湿った生ごみは細かく砕いて下水に流すため，入れられるごみは乾いたごみなので余り臭くありません。

入れられる乾いたごみとしては，紙類・ビニール類・トレイなどがあります。

Q3 グリーンビル市はこのリサイクルマークのステッカーを各家庭に配っています。あなただったら，このステッカーを何に利用しますか。

例えば，グリーンビル市では市民のリサイクルに対する意識を高め，家庭においてリサイクルできるものとそうでないものをきちんと分別して出してもらうためとダストボックスにステッカーを張ることにより，回収する人が間違えないために，このステッカーを配っています。

Q4 少し，日本のやり方と違うみたいですね。どういうところが違うか書いてみましょう。

日本では，地域ごとに1ヶ所に出されたごみを，回収する人が1つ1つ回収車に手で投げ入れていくのが多いようです。グリーンビル市では，回収する人が直接家庭にごみを取りに行きます。そしてダストボックスから，ごみを二輪車に移し，その二輪車を回収車にひっかけて電動で持ち上げ，ごみを落として入れます。

- Q5 ごみの出し方が日本のごみ収集所とアメリカのリサイクリングセンターでは、違うみたいですね。上の写真を見て、どんなところが違うか、書いてみましょう。

日本の場合は、ごみをビニール袋に入れたり、ひもでくくって出していますが、アメリカのリサイクリングセンターでは、ごみを直接出しています。それとアメリカの方は、ごみの種類ごとに出す場所が違います。

- Q6 みよちゃんの疑問に答えてみよう。

焼いてしまうと、有害な煙が出てしまうことと、その施設を作るとかなり費用がかかり、それよりは埋め立てにした方が安くつくからです。したがって、アメリカにおいては、リサイクル以外のごみは、ほとんど埋め立てにしているところが多いようです。

- Q7 このリサイクルショップとそこで売られている商品の写真を見て、あなたはどのように思いますか。あなたの感想を書いていきましょう。

まず、売られている種類の多さに驚きます。その中には、リサイクルで作られたは思えないような商品がたくさん売られています。使われなくなった品物の一部を利用して、インテリアに生まれ変わった商品もあります。